報告 REPORT

第34回全国有床診療所連絡協議会総会 徳島大会

北海道有床診療所協議会　会長　鈴木（すずき）　伸和（のぶかず）
（北海道医師会副会長）

第34回全国有床診療所連絡協議会総会徳島大会［令和３年10月23日（土）・24日（日）、徳島市］について報告する。

徳島県医師会・森俊明副会長が総会大会長となり「逆境の中で花咲く有床診療所～ withコロナ時代を生き抜くために～」をメインテーマに徳島市において標記総会が開催され、181名（現地75名、Web106名）が参加した。１日目は、令和２年度の事業ならびに会計収支決算の報告の後、令和３年度の事業計画（案）ならびに収支予算（案）について協議が行われ、承認された。

なお、令和３年度の事業計画は次のとおり。

１．新型コロナウイルス感染症に関して、有床診療所に必要な感染対策について検討し、必要な物品を支援する。
２．有床診療所経営状態の調査を行い、状況に応じ必要な支援を行う。
３．各地の災害の被害を把握し、必要な支援を行う。

平成30年度より届出による診療所の病床設置が可能となり、新規開設の要件が緩和された。このことにより、有床診療所は「病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能」、「専門医療を担って病院の役割を補完する機能」、「緊急時に対応する機能」、「在宅医療の拠点としての機能」、「終末期医療を担う機能」、「医療と介護を一体的に提供する機能」等々、重要な機能を担う貴重な地域医療資源であり、今後、地域包括ケアシステムを構築・強化していく中でその機能を存分に発揮していくことが期待される。

講演会では、日医総研・江口成美主席研究員から「有床診療所への期待と課題－平時と有事の地域医療において－」、日本医師会・釜萢敏常任理事から「新型コロナウイルス感染症に対する日本医師会の取り組み」、厚労省老健局・土生栄二局長から「地域包括ケアの推進、介護保険制度の諸課題について」をテーマに講演が行われた。

その後、アトラクションとして同会場にて400年を超える歴史を持つといわれる、徳島県の伝統芸能、阿波踊りが披露され、１日目の総会を終えた。

【アトラクションの様子】

２日目は、日本医師会・中川俊男会長から「最近の医療情勢とその課題－新型コロナウイルス感染症対策に向けて－」と題した特別講演が行われた。

【中川日医会長】

その後、「ウィズコロナ時代を生き抜くための戦略！」をテーマにシンポジウムが行われ、豊田内科・豊田健二院長からは「在宅医療と有床診療所を考える」、医療法人周和会蕙愛レディースクリニック・鎌田周作院長からは「産婦人科有床診療所の立場からの現況と対策」、橘整形外科・橘敬三院長からは「当院のウィズコロナ時代における対策と影響」、鈴木内科・鈴木直紀理事長からは「内科系有床診療所におけるコロナ対策とウィズコロナのためのデジタルトランスフォーメーション（DX）」、大櫛耳鼻咽喉科はな・みみサージクリニック・大櫛哲史副院長からは「有床診療所としての耳鼻咽喉科の特色とウ

ィズコロナ禍について」と題した発表が徳島県内５名のシンポジストより行われた。

次回は令和４年11月５日（土）～６日（日）、山梨県富士吉田市にて開催される予定である。多くの皆様にご参加いただきたい。

◇

有床診療所は、今後、地域包括ケアシステムを構築・強化していく中でその機能を存分に発揮していくことが期待されている。

しかしながら、医師の高齢化、承継問題、医療レベルの高度化などにより、有床診療所を取り巻く環境は厳しいが、今後、若い医師が意欲を持って有床診療所を開設し、安定した運営ができるような仕組みづくりが重要である。

北海道からも有床診の声を強く発信していきたいと考えているので多くの方々のご理解とご協力をお願い申し上げる。

◇

当会会員の条件は「北海道地区の有床診療所開設者及び当該施設に勤務する医師、又は北海道医師会会員で、本会の目的に賛同する者」となっており、有床・無床の区別なくどなたでもご加入いただけます。是非、下記事務局までお問い合わせください。

【北海道有床診療所協議会　事務局】
060-8627
札幌市中央区大通西６丁目
北海道医師会事業第四課内
TEL：011-231-1432
FAX：011-252-3233

＜参　考＞
北海道有床診療所協議会会則より一部抜粋
（目　的）
第２条　本会は、北海道地区の有床診療所が基軸となって、他の医療機関等と連携し、より良い医療を目指して研鑽を積みながら、重要な立場として地域医療に貢献することを目的とする。
（会　員）
第４条　会員は北海道地区の有床診療所開設者及び当該施設に勤務する医師、又は北海道医師会会員で、本会の目的に賛同する者とする。